

最優秀賞

住宅の部

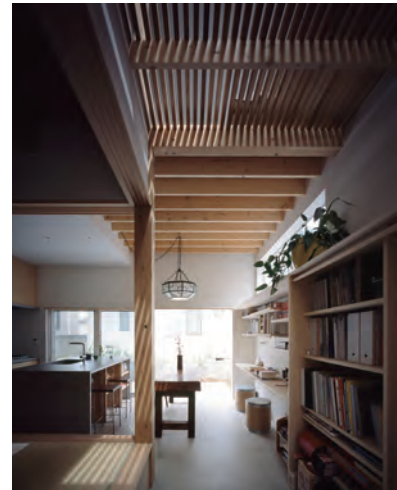
建築主：T氏
設計：一級建築士事務所ikmo
施工：株式会社 中野工務店
所在地：千葉市中央区

一路地と椿がつなぐ茶室付住宅一

椿庵



椿の木を用いた茶室



拡散する光が陰影を生む内土間



旗竿地の正面に見える茶室(外観)

(撮影全て/西川 公朗)

「椿庵」と名づけられたこの住宅は、四周を住宅に囲まれた旗竿地に建つ。家々の隙間から「椿」を連想させる赤い外壁が垣間見える。茶道を嗜む夫婦と子供2人のための住まいだ。

道路から唯一のアプローチである旗竿部を路地に見立てた先に茶室が見える。路地は90°折れ曲がり、玄関、内路地を抜けて奥庭まで巧みに誘導している。奥庭には1本の「椿」が植えられ、家族が集まるダイニングを見守る。この奥庭は唯一白い外壁で、椿の赤を引きたてると共に奥庭を明るくする。

待庵を意識したという茶室は施主と設計者のこだわりの空間だ。躡り口はゆとりのあるスケールで入りやすく、家族に「お帰りの一服」を振る舞う場だ。中板2畳の小さな空間は亭主と客にほどよい距離を生む。施主が山から切り出

した椿の木の床柱、赤みの杉と淡い色の左官の取り合わせ。茶の湯の音を聞くことはかなわなかったが茶花の主役椿の花が似合うやわらかな印象の茶室に仕上がっている。

家の平面構成や動線、断面計画はシンプルで隅々まで丁寧に考えられている。内路地に面する一段上がった8畳間は生活の場であり、客間や茶道教室などに使える多目的スペースだ。天井は構造材を格子状に組んだ格天井として無駄なく表現している。内路地に沿って、水屋、収納、デスクを配置し天井部はすのこを介して2階のプライベートスペースと緩やかに繋がる。周辺の建物の隙間に開いた窓やトップライトから取り込んだ光と風を実に巧く家全体に拡散している。

建築主と設計者が丁寧に作りあげた「椿庵」は各所の椿が住人をつなぐ完成度の高い住まいである。(藤本 香)